

## 令和5年度第1回大磯町スポーツ健康会議

- 日時 令和5年9月27日（水） 午後7時～午後8時40分
- 場所 大磯町保健センター2階研修室
- 出席者 会長、副会長ほか10名
- 事務局 スポーツ健康課長、スポーツ健康課職員
- 傍聴者 2名

### 議題

(1) けんこうプラン大磯の令和4年度進行管理について

事務局：（資料説明）

### ●意見提案及び質疑

#### 【委員】

事業の評価はどのようにされたのか。

#### 【事務局】

各担当課で目標値に対してどうだったか、前年度に対してどうだったかというところを評価して、事務局で内容を見た中で、評価についてヒアリングを行い、評価を行った。

#### 【委員】

事業の評価についてはスポーツ健康課担当者、関連する部署の担当者だけで決めるのではなく、委託先の事業者とも直接話を聴いてする必要があるのではないかと。正しい評価をすることでその事業に問題があれば修正をすればよいし、継続するべきかどうか、良いところがそれを延ばすこともできると思う。それが来年度につながっていくものだと思う。行政だけで決めるのではなく委託事業者の声を拾い評価をするべきではないか。

#### 【事務局】

令和5年度の進行管理について今後議論になってくる。その中でご意見含めて決めていきたい。

#### 【委員】

35 ページで成人歯科健診、口腔がん歯科検診でA評価となっているが、もうちょっとパーセンテージを上げていきたいと思っている。一方で隣のページの2歳児歯

科検診では、88.2%となっているが、100%に近い数字でないとAをもらえないのかという疑問もある。あと進行管理ということでかなりの量があり、目を通すのが難しい。団体ごとでもう少しまとめてもらえると見やすくなるのではないか。

【事務局】

35 ページの成人歯科健診では健診の人数が増えていて、割合も増えているので前年度より成果が出ておりAという評価をさせていただいた。次に34 ページについては、数値としてはかなり高いところもあり、担当とも話した中でAかBか迷ったところだが最終的にはBとさせていただいた。

【委員】

90%はかなり高い数字で、他の市町村、例えば隣の平塚市とかは50～60%なので大磯町はかなり高い数字というのはご理解いただきたい。

【事務局】

承知した。次回活かしていきたい。

【委員】

今の意見と重なってしまうが、評価でC評価ばかりついてしまう事業もあるので、次回からABCDEの5段階で評価してはどうか。その中で実際に120件近い項目に対しても、大磯町として重要度、緊急度があると思う。自分はスポーツ・運動が専門になるところだが、その中でも123番目のウォーキングマップの重要度と緊急度が落ちてしまうというのは専門の領域から見て仕方がないと考える。例えば、状況に応じて、「コロナが出てきた」「今回の自殺の計画」のように、そちらの方が大磯町として重要で早く対策が必要だよというように、町の中で重要な位置づけと見極める必要がある。そのうえで今は大切ではないけども少し落ち着いたらウォーキングマップを広めていきたいというように、職員の方のマンパワーの限界もあると思うので、ランチェスター戦略というが、注ぐ力を絞った形で次の計画はこれでいくというところも必要と思う。運動は順位が落ちて、次のときにあげていくというところもあると思うので重要で緊急でないというものだが、重要で緊急な対策が必要であったコロナであった。そのあとまた次のものを進めていくという町民にも理解されるような形で現状C、Dだけれどもそれよりも今はほかにやりたいものがあるという説明ができる状況を作っていくということでも良いのかなと一つのアイデアとしてご検討いただきたい。

【委員】

A B Cの使い方はそもそもCが何年も続いたからBとか、Bだからこのあたり努力しなければいけないからAがあるのか、Aの存在価値がわからない。Cがつきすぎてからやらないとか何かあるのか。

【事務局】

進行管理書の表紙の裏のところにA B Cの説明があり、それぞれ各担当課で事業を行っている。評価がCであればどういうところをやっていかなければいけないのか、そもそも事業が必要なのかとなってくる。

【委員】

事業をやっている中ではこれが最高だなと思ってやっている。A B Cと成績がついてしまうと気分が良くない。何に向けてなのかはっきりしていない。具体的な緊急度というところもそうだけでも、町民がよくわかるように、やっている人もよくわかるという透明感があつた方がやる方も楽しいと思う。A B Cでしっかり分かれてしまうのもどうかと疑問に思っていた。

【委員】

事業が多く、まとめるのが大変だったと思うが、資料をみてもわかりにくく、優先順位もわからない。毎年同じような資料になっている。スポーツ健康課として本来の目的である町民の健康寿命を延ばすためにどうすれば良いかということを再度顧みて事業をすすめてほしい。資料のまとめ方も含め、ポイントを絞って、行政としてどうしていきたいのか示してほしい。昨年度事業者として参加しましたが個人的には評価はCだと思っています。行政とさまざまな議論をしてだめなところを修正していきたい。

【事務局】

できる限りわかりやすい形で進行管理やっていきたい。ご協力をお願いしたい。

【会長】

町民の方にとって、団体にとって使えるものになるのかというようなところを考えながらやっていただきたい。

毎年同じような「現状維持」「継続」という形で形骸化してしまっているところもあるが、一方でしっかり書いてもらっているところがある。また、せっかくAなのに同じようなトーンで書いてあったり、逆に評価が下がっているのに同じトーンで書いているところもあったり、本当にしっかり見ているのかという疑問があるがどうか。

【事務局】

推測でしかないが、評価が負担になっていると思われる。各担当課で進行管理がきて、特に事業が多い課ではなかなか次の年度に活かすことができていないところもあるではないか。先ほどいただいた意見もあるので、できるだけ各担当課の負担にならないように、スポーツ健康課としてもヒアリングやどう計画が進んでいるのかを見ていかなければならないので、わかりやすく進行管理しやすい形でやっていきたい。

【副会長】

ここ数年コロナ禍で事業が実施できなかったものも多いが、その中でどうしても発言したかったのが 10 ページのいのちのはなし事業のことである。小学生向けの講座で、令和 3 年度にも予定していたが、コロナが流行ってしまい、次年度に延期になってしまった。令和 4 年度に延期した 5・6 年生に実施した。子供の感想をすべて見て、「生きているだけで 100 点満点」ということを言ってもらえてすごくよかったというのが多かった。令和 5 年度に保護者にもアンケートを実施し、子どもが生まれた時のことを話すきっかけになってすごく良かったという感想をいただいた。いのちのはなしは、この町では長くやっているが、コロナ禍であってもこの話を聞いている学年があってもいけないと思ってお願いした。コロナ禍では修学旅行に行っていない学年もあるなど、学校行事で実施出来なかったことは沢山あるが、これだけはやってほしいとお願いして良かった。思春期の中学生の中には、自分がどこからやってきてどうして生きているんだろうと悩む子が必ずいる。だから小学生でこの話を聞くことがすごく大事で、町の自殺対策にもつながるものだと思う。これこそ継続実施してほしいと強く思っている。

【会長】

令和 4 年度は A 評価となっている。ただ今の話を聞くと前年度に比較してではなく、もっと全校に広げていくべきではないかという意見ということでしょうか。

【副会長】

大磯町は小学校が 2 校しかないので、2 つの学校で実施してもらえば良いと思っている。中学生は中学生向けの話もあると思うので、そこを広げていくというものもある。

【会長】

実際に携わっている方の意見がなかなか反映されていないと思う。事務局が主導になってというより、皆さんでご自分のことを評価していただきたい。なかなか参加していただくのも難しいが、そういう形もぜひ検討していただきたい。

【委員】

6 ページのところ、乳幼児の訪問事業のところだが、年度別事業目標で全件訪問していくとなっているけども、成果のところでは母数が書いていないので、52 件が全件なのかどうか分からないため評価できないと思う。どういうケースに対してどのくらい対応できたのか、数だけではなく、成果としての手ごたえ、こういう相談があったとか、こういうところで虐待予防につながったのかというところが実績に一文でも入っていると魅力的な評価になるではないか。

【委員】

13 ページのおあしす事業は終わったのか？その代わりの事業はあるのか。

【事務局】

おあしす事業は今までは各地区に町の保健師が訪問して行っていたが、現在は、各地区からの要望をいただいて町の保健師や栄養士が訪問して各地区の会館を使って健康や栄養の話をさせていただいている。

【委員】

患者さんがおあしす事業がなくなってしまってさみしいと言っていた。行政の計画が変わるのもわかるが、良いものは続けてほしいと思う。縮小というのもわかるが、切れ目なくやっていただきたい。制度的な問題や予算的な問題があると思うがお願いしたい。

【会長】

終了したものを復活できるかわからないが、そういう事業ができればご検討いただきたい。

令和4年度の進行管理書案について多くのご意見いただいたので、事務局で修正をして、次回にまた検討するというところでよろしいか。

【事務局】

今回は令和4年度の進行管理書案としていったん前期の計画のまとめということで評価を出させていただいてご指摘を受けましてご意見をいただいている。次回は第2期けんこうプラン大磯を始めさせていただくので、今回、管理シートの出来が良くないということで内容を一新できるような形で時間もないが、ご指摘いただいた評価の面でコメント欄を大きくするなど表の工夫をしていきたいので、ご理解いただきたい。

(2) 大磯町自殺対策計画の改訂について

【事務局】(資料説明)

【委員】

令和元年度以降の男女の内訳はあるか。

【事務局】

令和元年度は2名で男性が2名。令和2年度は7名で男性が5名、女性が2名、令和3年度は4名で男性が2名、女性が2名である。

【委員】

非常に少ない人数の中だが、だからと言ってやらなくて良いということではなく、過去の統計だけ見ると男性女性を一つの分け方とした際に女性は2名で止まっている3年間がある。一方で男性だけが増えていて、社会的には対策に取り組むというところもあるが、母数としては男性が2倍多い。令和4年度の9名が急に2名に戻ったときに減ったとならない反面、増えた時には増えた印象となってしまう。例えば、その前段階で自殺を考えてしまう時間があつたのかという項目を設けて年に一回調査するなどということが大事ではないか。人口が3万人だと3人で0.01%という非常に少ない数字だが、人数と対策というところでは健康課題と考えると糖尿病とか比べるとより大幅に少ない。事業をやったからといってかなり確率論としては低くなってしまう。現状分析というところでの男女別というところでも令和元年度では男性2名しかいなかったのが令和4年度では7名で3倍になってしまったという見方もできるので、全体的にやっていくが大磯町では男性にもっと注意した方が良くないかという捉え方もできるので、重要度と緊急度というところをもう一度考えていただきたい。

【会長】

今のご意見に付け加えて、年齢別か年代別はわかるか。

【事務局】

令和4年度の9名の年代別の内訳は、20代が1名、30代が1名、40代が1名、50代が4名、60代が1名、70代が0、80代以上が2名となる。

【会長】

大磯町として、男女別、年代別の人数を確認していただきたいと思う。行き渡った

対策をしていくには実態把握をしていただきたい。国は女性がというふうに言っているけども、大磯町としてそれでいいのかというところで関わってくると思うので、分析をしていただきたい。

【委員】

去年か一昨年か小学校でいじめがあったという情報があった。それが自殺につながる可能性がなきにしもあらずである。それはここに入ってこないのか。

【事務局】

体系のところに町で大きな柱を作っており、前計画では「5. 児童・生徒の SOS の出し方に関する教育の推進」とあり、その中で国府小学校高学年に対して助産師の方にいのちのはなし事業をしたり、小学校中学校の道徳の授業でいのちの大切さについて授業を行ったりしている。

【委員】

現在、小学校や中学校ではスクールカウンセラーは常駐ではないのか。

【事務局】

学校教育課で会計年度任用職員のスクールカウンセラーを雇用していたり、教育研究所で雇用して巡回をしている。

【委員】

町として十分に支援していただきたい。

自殺されてしまう方は想像以上に多い。その数の把握も大切ですが、その手前の状態のかたはもっと沢山おられます。私たちでもわからない、そういう方がいるというところを念頭に入れて考えてほしい。若い人からお年寄りまで悩みを抱えている人はいる。前年度包括支援センターもなかなか機能できなくて、その中で埋もれてしまっている人がいるかもしれません。スポーツ健康課だけの話ではなく、子育て支援課、福祉課、民生委員、医師会、みんな巻き込んで横断的に意見交換をしてほしい。

【委員】

計画の7つの柱で令和4年度の9件の中でどれが対策としてできなかったのか、一方でその9件だけ考えるのではなく、現場レベルで摘み取っているものがたくさんあるだろうと。命が救えたところからスクールカウンセラーが助けたものがあつただろうというところで、実際にスクールカウンセラーに相談に来た件数を評価する。それが10件が20件に増えている。これは増える可能性があると考えが必要があると思う。計

画を評価していくと想定しているときに、柱の文言が漠然とした部分ある。柱の文言をみなさんがその行動を思いつくような形にすると動きやすい。例えば、スクールカウンセラーの配置を具体的に書いてしまうのは対策というところでやりやすいのではないか。スクールカウンセラーを週何回配置できた。それが週に2回、3回になったと考えていくと。具体的な行動計画に寄せた方があとで評価したときに楽というか、失敗したとしても次の対策として考えていきやすい。柱の文言を少し見直してはどうか。行動計画と書くことができないと思うが、行動計画のような形でどうかと思い、提案させていただいた。

#### 【副会長】

かつてスクールカウンセラーはどちらかというと中学校の中というイメージであったが、いまや小学校にも配置されている。先ほどもお話はあったが、町の会計年度任用職員のスクールカウンセラーがいて、県からもスクールカウンセラーが配置されている。町の中には必ず毎日どこかの学校にスクールカウンセラーがいるという体制になっている。相談件数は、中学校も小学校もそれなりに数があると感じている。専門職がそれだけいれればいいし、常駐してもらえればさらにいいと思うが、どの曜日にも町の中に必ず専門職であるスクールカウンセラーがいるというところで、以前よりは進んでいると思う。

#### 【委員】

若い方の自殺は心打たれる。仕事柄半分くらい高齢者で食べることができなかったら生きていてもしょうがないかなと言う患者さんもいたりする。この改訂後の7つの柱で、孤独死の方、高齢の方、大磯町にはたくさんいるので目を向けてはと思う。若い方や女性の方もそうだが、そういった方にも目を向けてはどうか。

#### 【委員】

自分の仲の良い友人が自殺してしまった。頼れない。対策をしますよと言っても死んでしまうと頼れない。そういったところをどうサポートできるか、わかりやすく簡単に。その方が響く人いるのかなと。専門ではないのでわからない。町民の立場で聞いていると思う。制度もわかりにくいし、結局頼れない。わかりやすく簡単にお願いしたい。

#### 【会長】

行政が作った計画はなかなか伝わりにくかったり、わかりにくかったり、周知の仕方というか、どういうふうに周知をしていくのかはどこでも同じように大きな課題だと思う。例えば計画に盛り込んでいくのか、実際に盛り込んだものをどういうふうに具体化したのかというところにもつながっていくのではない。

自殺の対策ということで保健所の委員としてはどうか。

【委員】

保健所としては今後とも連携させていただきたい。自殺に至らない手前の方々という話があったが、会議を開くことが重要と思った。消防との連携もあると、未遂者の把握というところも大きなポイントになると思う。指摘もあったが、相談の窓口をどういうふうに伝えるのか。私自身も死にたいと電話を受けたことがある。つながるからこそその場で思いとどまることできた、ということをつなぎ合わせていくのか。それがすごく大きい。その一本の電話をしてもらったことがその人が死ぬことを防ぐ一歩手前になったのかなと。電話をもらったときにどこまで具体的に死にたいと考えているのか。漠然と死にたいと思っているのか、どちらの緊急度の方にも届けたい情報、大磯町ではスマホに届くツール持っているので、そのあたりも工夫しながら、保健福祉事務所も一緒にやっていければと思っているので、今後ともまた相談させていただきたい。

【委員】

相談できない方がいて、いかにつなげるかという話があった。私の知り合いでお子さんが悩んでいてスクールカウンセラーに面談したいと。予約がいっぱいで3週間後になると。タイミングもあると思うが、その間にそういう気持ちになってしまう。理想ではあるが、時間を置かずにも大人も子供も同じでスクールカウンセラーの話だけではないが、相談するところが身近にあるということを知ってもらうのも、3日後に電話するというのではなくて、その場で対応できるようなシステムを持っても良いと思う。

【委員】

県でやっているいのちの電話もあるで、そういう情報をいかに伝えるか、町民とどうつなげるのかという視点で考えると良いのかなと。大切な指摘だと思う。待っていたらその間に思いとどまることなく、一歩ガツツとってしまう。死にたいということで視野狭窄になっている方に待てというのは無理な話だと思うので、そういう形はすごく大事だと思う。

その他

【事務局】（今後のスケジュールについて説明）

閉会